
中国語教育を目指す日中対照言語研究 — 類別詞を中心に —

夏 海燕 / 彭 国躍 / 加藤 宏紀

世界の言語をみると、ものの数量を言語化する際に、one apple, two cats, three journalistsのように、数量類別詞がなく、可算・不可算、単数・複数で成り立つ言語がある一方、「1つのりんご」「2匹の猫」「3人の記者」のように、類別詞の介入が必須な言語（主に東アジア・東南アジアの言語やオーストロネシア語族など）も存在する。類別詞は話者がモノをカテゴリー化するという重要な認知プロセスに関与して、言語使用者の主観的な認知や判断を反映する主観性の高い言語表現となる（Lucy1992, Imai and Gentner1993, Foley 1997, 井上 1998）。

中国語と日本語には、量詞と助数詞という用語こそ異なるものの、ともに類別詞に当たる文法カ

テゴリーが存在する。両言語に共通して用いられる類別詞もあるが、意味が複雑に絡み、混乱が生じやすく、かえって習得の難点となる。本研究では、日本語を母語とする中国語学習者を対象に、習得の実態調査を行い、学習者の類別詞習得状況、誤用のパターン及び誤用を招いた要因を明らかにしたい。

2017年度は本学外国語学部中国語学科2年生から4年生を対象に、同じ課題について作文を書かせ、データを収集するという形でパイロット調査を行った。調査を通して、以下のことが分かった。まず、異なり語数からみると、学年とともに使用される類別詞の数が増えるというのが確認できなかった。また、全体的な傾向として、a. 類別

詞使用の回避（類別詞を使用すべきところに使わない）、b. 類別詞の誤用、c. 類別詞「个」の濫用が目立つ、といった特徴が観察された。今後はパイロット調査の結果をもとに学生の数を増やして、本調査を行う予定である。ただ、作文形式のみだと、把握しきれない類別詞もあり、日本「中国語教育学会」学力基準プロジェクト委員会に

よって作成された『中国語初級段階学習指導ガイドライン』には48の類別詞が挙げられているが、パイロット調査に現れた類別詞はその1/4にとどまる。そのため、調査手段を工夫する必要がある。また、データに偏りがないように、本学のみならず、他大学の中国語学習者のデータも収集していく必要がある。